

第2章

【目指す子供の姿を五者で共有】実践例

目指す子供の姿をコミュニティ・スクール連携協議会で共有している取組 ～八代郡氷川町～

町のコミュニティ・スクール連携協議会で学校運営協議会の委員や地域学校協働活動推進員、行政関係者や各学校の代表者が目指す子供の姿を共有し、教育活動の支援や地域活動との連携を図っている。



氷川町では、5校すべてに設置しているコミュニティ・スクールの組織を生かし、地域・行政・学校が目指す子供の姿を共有されています。

「コミュニティ・スクール連携協議会」（各学校の学校運営協議会の代表や教育委員会〈学校教育課、生涯学習課〉、各学校の管理職等が参加）において、各学校の目指す子供の姿や取組を情報共有し、町全体で取り組む活動や支援等について協議されています。各学校や町全体の子供の実態や課題を踏まえ、年度始めに活動計画を確認し、年度末に活動報告を行い、次年度に向けた取組の方向性についても検討されています。

さらに、学校運営協議会5校合同会議（合同研修会）で取組の方向性を確認し、活動の充実につなげられています。

地域・行政・学校が目指す子供の姿を共有することで、「地域とともにある学校づくり」が推進されています。

[氷川町コミュニティ・スクールのパンフレット]

